

<p>学校教育ビジョン 1 学校教育目標 自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成 2 「行きたい、行かせたい、行ってみたい学校」を目指して 子どもも教師も行きたい、保護者が行かせたい、地域の方が行ってみたいと思う三谷小学校 ①学力を育む…学び続ける意欲、学んだことを生活に生かせる力 ②心身を育む…望ましい言動を自ら判断し、自己を磨こうとする心情や態度 ③故郷を愛する心を育む…地域・家庭との連携、実践を通じた協働体制の強化</p>	<p>3 本年度の重点事項 児童が目当てを持って主体的に取り組み、友と共に自分の成長を実感しながら、知・徳・体のバランスのとれた豊かな体験ができる学校づくりを行う。 ①確かな学力の向上を目指して【楽しい授業・信頼される教職員】 ②子供一人一人の心身の育成を目指して【主体性・豊かな人間関係・体力向上】 ③信頼される学校を目指して【開かれた学校・特色ある学校・安全安心】</p>
--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	2学期以降の改善策	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導		各教科の授業のふり返りに重点を置き、自己の変容や新たな課題の発見につなぐことができるように授業改善を図る。 国語科を中心として、学び合いの質のさらなる向上を図りながら、児童一人一人の確かな言葉の力を育成する。	教務主任	児童の変容の自覚のためにふり返りを行っているが、授業時間のタイムマネジメントが図れず、ふり返りができないこともある。	【成果指標】 各教科の授業のタイムマネジメントを意識して、ふり返りまで取り組む。	授業のふり返りを意識的にとることができたと、実感する教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。				
				高学年を中心に目指す学び合いの姿が育ってきている。しかし、これまでそのよさを児童間で交流する場面があまり取られていない。	【成果指標】 児童に学びの主体が自分たちであるという自覚を持たせるために、目指す授業像を児童間で交流するなど、手立てを工夫することができたという教職員の割合が						
②生徒指導 ※いじめの未然防止		場に応じた気持のよいあいさつや言葉遣いの習慣化を図ることで、よりよい人間関係を育成する。 全教職員の同僚性を高め児童理解を共有するとともに、生徒指導の3機能を生かした授業作りを取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	生徒指導主事	元気よく気持ちの良い挨拶をする児童が増えてきている。場に応じた言葉遣いやしつかりした返事ができるよう、学級や集会などで呼びかけ、児童の意識を高め、実践につなげる。	【成果指標】 場に応じた言葉遣いや返事をすることができる。	場に応じた言葉遣いや返事をすることができた児童の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。				
				大きなトラブルはないが、少人数であるため、人間関係が固定する傾向がある。全職員で全校児童に目を配り、変化を見逃さないようにする。	【努力指標】 児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行う。	児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行うことのできた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。				
③キャリア教育・進路指導		前向きに個々の課題に取り組み、やり遂げた満足感を味わわせ、将来への夢や希望を膨らませる。	キャリア担当	明るく素直で仲が良いが、お互いに切磋琢磨し、高め合うことや粘り強さを育成する必要がある。	【努力指標】 児童が目標に向かって取り組み、自己評価をできるようにさせる。	児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行うことのできた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学習や行事等において、児童が目標に向かって活動し、自己評価をすることができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
				達成感や満足感を味わわせるために、学習や行事等において、自己を見つめ、目標を立て課題に取り組む。							
④保健管理		児童の発達段階に応じた、バランスの良い体力の向上を目指す。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、柔軟性においてやや弱い傾向がみられる。	【成果指標】 秋の体力テストにおいて、32項目中25項目以上で春の県平均記録を突破する。特	秋の体力テストにおいて、各体力要素32項目中、春の県平均記録を突破した項目が、 A 25項目以上 B 20項目以上 C 16項目以上 D 16項目未満	春と秋に体力テストを実施し、体力分析を行う。				
		児童自身に良い姿勢を意識させ、姿勢改善に向けた指導の充実を図る。		授業中や食事時の姿勢が悪い児童が多く、軽度の脊柱側弯症や姿勢異常と診断される児童が20%おり、姿勢シミュレーションを行って訓練を実施したが、具体的な場面を想定し臨機応変に行動することができていない。	【成果指標】 良い姿勢をとることができる。	よい姿勢をとることができたと答えた児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。				
⑤安全管理		日頃からの防災への備えとその教育の充実を図り、事故や災害の際に的確な行動をとることができるようにする。	教頭	児童への事前指導の時間を確保し、職員シミュレーションや研修を充実させる。	【成果指標】 訓練の際、具体的な場面を想定し、本気になって臨機応変に行動することができた。	訓練の際、具体的な場面を想定し本気になって訓練を行うことができたという教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。				
		気になる児童への校内支援体制の定着と継続を図り、児童の特性理解を深め、個に応じた支援を組織的に行う。		児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の共通理解を深め、個に応じた支援となるようにする。	【努力指標】 個に応じた支援をするために、職員間の児童への共通理解を深める。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深めることができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。				
⑦組織運営・業務改善		業務の効率化を進め、職員が担当業務に専念する時間を確保し、学校全体の教育力を高める。	教頭	日課の工夫、ICT活用・業務改善研修、退勤時刻の見える化などを通して業務の効率化を進め、職員の勤務時間短縮のための意識・スキル	【努力指標】 業務を効率化し、勤務時間を短縮する。	業務を効率化し、勤務時間を短縮することができた教職員が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。				
		全職員が前向きに研修に取り組み、研修の成果を共有し、共通実践につなげる。		全職員が研修内容を共有する時間を確保し、若手の人材育成に関わることができるようになる。	【努力指標】 全職員が若手研修に関わり、得られた情報を実践に生かす。	若手研修に関わり、得られた情報を実践に生かすことができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。				
⑨保護者、地域との連携		保護者や地域の方とともに、地域のよさを生かした実践を行い、児童の地域への誇りや郷土愛の心情を涵養する。	教頭	地域人材一覧を活用し、どのクラスも数多くの授業で地域の方を招いて授業を行った。	【努力指標】 地域人材を活用し、児童の郷土愛を育む実践につなげる。	地域人材を活用し、児童の郷土愛を育む実践を行うことができたという教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。				
		校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。		月に1回の安全点検および地域保護者との協力による地域点検を活用し、安全で教育効果を高める教育環境づくりに努める。	【安全指標】 安全点検の結果から、不備な点は早急に対策を行い、安全で効果的な校舎内外の環境整備に努めることができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上	安全点検の結果から不備な点は早急に対策を行い、安全で効果的な校舎内外の環境整備に努めることができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。				

学校関係者評価	
---------	--